

『信仰を次世代につないでいく』

吉田真司

この 11 月は、第一主日に「永眠者記念礼拝」、第二主日に「成長感謝礼拝」を献げることを当教会の恒例としています。人生の終盤（返していく段階）と序盤（会得していく段階）を見つめるかのようなその二つの礼拝は、とても深くつながっているものと思います。

「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる」(出エジプト 20:12) とあります。「父母」とは、共同体の高齢期を迎えた方々のことを指しています。「長く生きる(長寿)」とは聖書では神様の祝福の一つです。族長たちアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフやモーセも、神様に用いられて高齢まで有意義に生きました。個々の人間が与えられた命を全うする、これは神様の大きな祝福です。しかしそれは個人の命の事柄を超えて、信仰共同体の命の事柄でもあるのです。

神様が、ご自身を「あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」(出エジプト 3:15) と啓示されているように、神様は信仰共同体の歴史を、世代を超えてつないで行かれるお方です。アブラハムやイサク、ヤコブやモーセらがその人生を最も有意義なものとしたのは、信仰を全うし、そして信仰を次世代につないだということにあります。

ヘブライ書にはこう書かれています。「信仰によって、ヤコブは死に臨んで、ヨセフの息子たちの一人一人のために祝福を祈り、杖の先に寄りかかって神を礼拝しました」(ヘブ 11:21)。「杖」とは聖書では「信仰」の象徴です。「杖の先に寄りかかって」とは、文字通り「足事が弱り、杖を必要とする高齢まで」という意味でもあり、同時に、「ひたすら神様に信頼して生涯を生きた」ということであるでしょう。その生き様を通してヤコブは信仰を表し、そして信仰を子たちにつないだのです。すなわち長寿の祝福というテーマの中には「信仰の継承」という重要なテーマが含まれているのです。『老いの喜び』という本の中にこうありました。「老人は子どもたちが老人を必要としているのと全く同じように、子どもたちを必要としている」と。

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)		
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間 4-2 4-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>